

経営比較分析表（令和元年度決算）

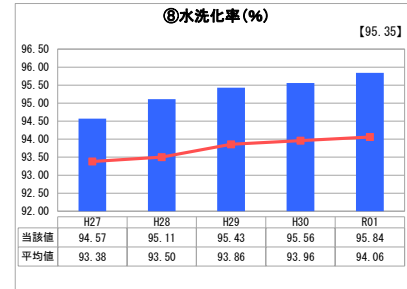
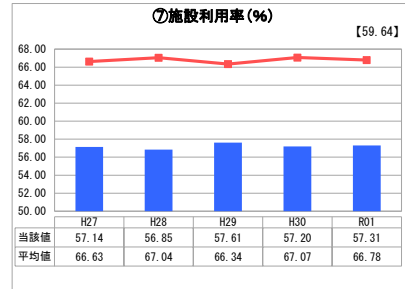
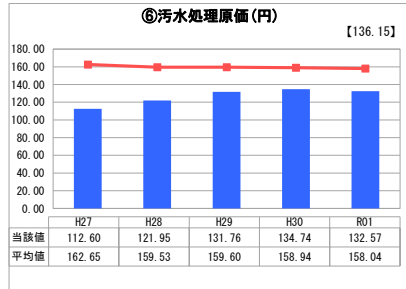
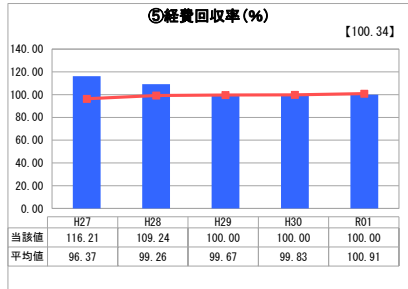
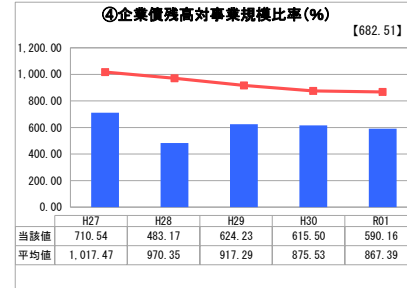
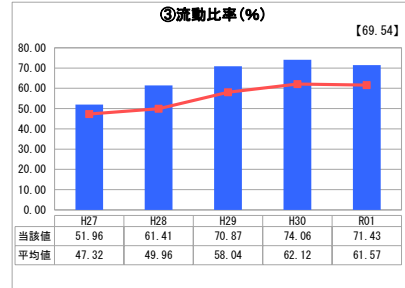
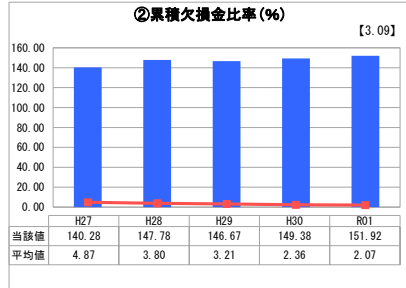
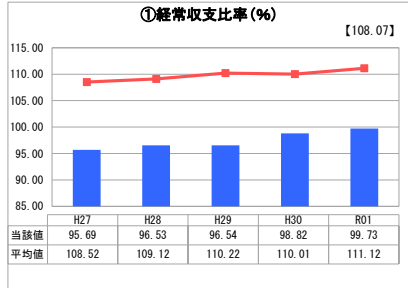
石川県 白山市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ad	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	36.77	90.37	93.81	2,662

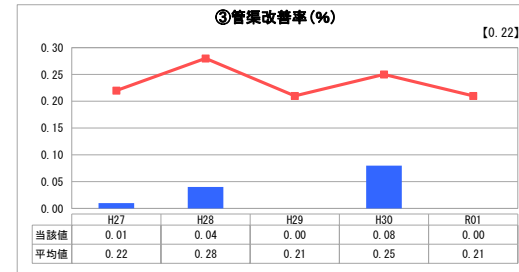
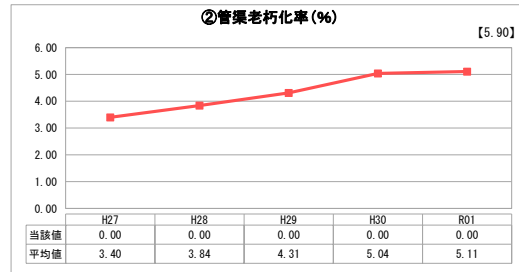
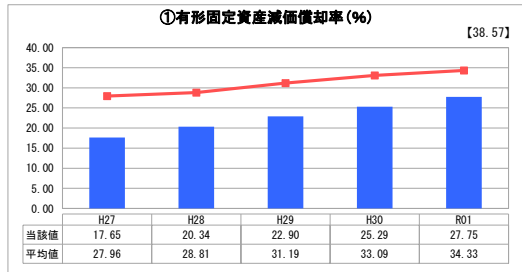
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
113,715	754.93	150.63
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
102,648	26.81	3,828.72

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率が100%に及ばず赤字を示しており、累積欠損金も年々増加しているが、企業債支払利息が年々減少しているため、徐々に黒字化に近づいている。また、経費回収率については平成27年度の料金改定以降100%を超える水準で推移している。なお、企業債残高は年々減少しており、住居系の面整備も完了していることから、今後は施設の更新需要を見据え、引き続き企業債残高の抑制に努め、経営の健全化を図っていく必要がある。このほか、施設利用率については、施設の処理能力がやや過剰で効率性が低いのが、現在、処理区の統合を進めていることから、利用率は上昇するものと思われる。

2. 老朽化の状況について

減価償却率は今のところ低く、管渠は比較的新しい状態ではあるが、早期にストックマネジメント計画を策定し、後年度における管渠更新投資の平準化に努める必要がある。

全体総括

管渠の老朽化が始まるまでに、さらなる経費の節減と使用料金の見直しにより、利益の確保、累積欠損金の解消に取り組み、早期に良好な経営状態となることが重要である。そのためには、将来の管渠更新や企業債の償還に備え、適切な規模の更新計画と財務計画を検討していく必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。